

# 九州の新しい顔

⑥



宇野弘子氏(左)と鬼丸大輔氏

九州経済産業局とともに、韓国・中国および ASEAN地域とのビジネス・パイア作りを展開するK-RIIP(九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ)。そのK-RIIPが実施する様々な事業のなかにも、非常にユニークで斬新な活動がある。「エコ塾」という。エコ塾とは、いわゆるセミナーであり、①ビジネスの場の提供、②環境ビジネスの創出、③人脈形成を目的として開催されている。

通常、この手のセミナーは、講師として大手企業の役員クラスが

登壇し、参加者は地場および中小企業である。参加者は交流会にも出席し、講演企業への営業の道を開き始める。名刺交換に奔走する。エコ塾をユニークで斬新と評したのは、まさにこの構図を崩したことに

氏と鬼丸大輔氏。やはり、新しい発想は若い人から生まれるものである。次代を担う世界のリーダーは、環境関連産業である。これはおそろしく、誰もが納得するであろう。ところが、どんな環境関連ビジネスがマーケットを拡大する

結核などへの展開を意図したものである。農業・工業用途へのアプリケーションの模索、実用化に向けて共同研究などで、パートナーを求めての参加と推定する。エコ塾に登壇した結果報告を公表している企業があるの

ワークの広さが活かされている点は特筆すべき事項である。運送サービスを主業務とする(株)IBUKIは資本金300万円、従業員6人の会社である。運送業務のノウハウをレントゲンやMRIなど先端医療機器の搬入・搬出作業

講演後は参加者の方々の交流のなかで、表ビジネスへの道を模索。しかも、まったくの異業種との人脈が形成でき、ビジネス拡大に成功している。(株)アットグリーンは資本金1000万円、従業員7人のコンサルティン

## ビジネスマッチングは「エコ塾」で

参加者も同じ立場、同じ目線で情報交換を行い、そこから新しい人脈や事業提携、共同作業などの糸口が見出せるように配慮した点にある。

実際の、3月のエコ塾には大手食品メーカーの味(株)九州事業所が登壇した。アミノ酸を製造する過程で作られる発酵副産物の有効活用について

で、数社の事例を紹介する。三菱長崎機工(株)は総合エンジニアリングの大手企業だが、講演テーマは化石燃料を使用しない下水汚泥減量化技術。登壇がきっかけでK-RIIPに入会し、その後、海外企業の交流機会が得られ親密な関係が続くなど、K-RIIPのネット

で活かしている。さらに、環境の視点からは、廃棄処分となった先端医療機器を分解し、そこで使用されているアルミニウム、ステンレス、銅、レアメタルなど貴重資源のリサイクル化にも取り組み

「エコ塾」講演会



「エコ塾」講演会

## 講演企業を全国から募集

かどの疑問には、ほとんどの人が回答に窮する。それは企業規模の大小を問わず、誰もが抱える共通の苦悩である。

で活かしている。さらに、環境の視点からは、廃棄処分となった先端医療機器を分解し、そこで使用されているアルミニウム、ステンレス、銅、レアメタルなど貴重資源のリサイクル化にも取り組み

「エコ塾」講演会

「エコ塾」講演会

「エコ塾」講演会

「エコ塾」講演会

「エコ塾」講演会

「エコ塾」講演会

「エコ塾」講演会

「エコ塾」講演会

「エコ塾」講演会

(この稿終わり)